

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品特定名

化学品の名称 : エポシールPLUS (主剤)

## 供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : タキロンシーアイ株式会社

住所 : 〒671-2421

兵庫県姫路市安富町長野 405

担当部門 : 安富工場 技術グループ

電話番号(緊急連絡電話番号) : 0790-66-2285

## 作成日及び改訂日

作成日 : 2014年12月1日

改訂日 : 2024年6月7日

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 健康有害性

皮膚腐食性/刺激性 : 区分2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

皮膚感作性 : 区分1

## 環境有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分1

水生環境有害性 長期(慢性) : 区分1

GHS分類結果が「区分に該当しない」、「分類できない」の項目は記載していない。

## 絵表示



GHS07



GHS09

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : 皮膚及び眼刺激 (H315+H320)  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317)  
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性 (H410)

## 注意書き

安全対策 : ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)  
取扱い後は、手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)  
環境への放出を避けること。(P273)  
保護手袋を着用すること。(P280)

救急措置 : 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352)

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

特別な処置が必要である。(P321)

皮膚刺激が生じた場合 : 医師の診察 / 手当てを受けること。(P332+P313)

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合 : 医師の診察 / 手当てを受けること。(P333+P313)

眼の刺激が続く場合 : 医師の診察 / 手当てを受けること。(P337+P313)

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

(P362+P364)

漏出物を回収すること。(P391)

廃棄 : 内容物 / 容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

一般名 : エポキシ樹脂系接着剤 主剤

| 名前   | 濃度 (%) | 化学式  | 官報公示整理番号 |       | CAS 番号     |
|--|--------|--|----------|-------|------------|
|  |        |  | 化審法番号    | 安衛法番号 |            |
| 4, 4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3-エポキシプロパン重縮合物 | 20-30  | (C <sub>15</sub> H <sub>16</sub> O <sub>2</sub> ·C <sub>3</sub> H <sub>5</sub> ClO) <sub>x</sub> | -        | -     | 25068-38-6 |

### 4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い場合は医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合 : 直ちに医師に連絡すること。  
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
皮膚を流水 / シャワーで洗うこと。

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。  
直ちに医師に連絡すること。  
無理に吐かせないこと。

応急措置をする者の保護 : 適切な保護具を着用して作業する。

### 5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 粉末化学消火剤、炭酸ガス、スプレー水または通常の泡消火剤、砂 / 土

|             |   |
|-------------|---|
| 使ってはならない消火剤 | : データなし   |
| 火災危険性       | : 本製品は引火性である。<br>可燃性液体。                                     |
| 消火方法        | : 火災の場合:安全に対処できるならば漏えい(洩)を止めること。<br>安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。 |
| 消火を行う者の保護   | : 圧縮空気・酸素呼吸器、<br>耐火防護服                                      |

## 6. 漏出時の措置

|                 |  |
|-----------------|--|
| 非緊急対応者          |  |
| 保護具             | : 適切な保護具を着用して作業する。   |
| 応急処置            | : 皮膚、眼との接触を避ける。<br>漏出エリアを換気する。<br>漏出した製品に接触することもその上を歩くこともしないでください。<br>関係者以外の立入りを禁止する。    |
| 環境に対する注意事項      |  |
| 環境に対する注意事項      | : 下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。<br>排水溝または水路への侵入を防ぐ。<br>製品を環境中に放出しない。                                 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 |  |
| 封じ込め方法          | : 大規模漏出の場合、溝に漏出を封じ込め、その後の安全な廃棄のため、<br>湿った砂または土でふさぐ。<br>可能であればリスクなく漏出をせき止める。              |
| 浄化方法            | : 少量の液体流出:不燃性吸収材に取り込み、廃棄用容器に入れる。<br>砂または土により、すべての拡散した製品を吸収する。<br>漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 |

## 7. 取扱い及び保管上の注意

|          |   |
|----------|---|
| 取扱い      |   |
| 技術的対策    | : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。<br>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  |
| 安全取扱注意事項 | : 『10. 安定性及び反応性』を参照。<br>作業所の十分な換気を確保する。<br>眼、皮膚、衣類につけないこと。<br>粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。<br>火気注意。<br>火気厳禁、静電気注意。 |
| 衛生対策     | : 製品取扱い後には必ず手を洗う。   |
| 保管       |   |
| 安全な保管条件  | : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。<br>日光から遮断すること。  |

保管温度 : 2 - 40 °C

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 十分な換気を行う、局所排気装置を設置する。
- 手の保護具 : 保護手袋を着用すること、不浸透性の保護手袋を着用する。保護手袋の選択については、以下の点に留意する。  
取扱説明書に記載されている耐透過性クラス等を参考として、作業に余裕のある時間を設定し、その時間の範囲内で保護手袋を使用する。
- 眼の保護具 : 適切な眼の保護具（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣、必要に応じて不浸透性の保護服及び保護長靴を着用する。保護服及び保護長靴の選択については、以下の点に留意する。  
取扱説明書に記載されている耐透過性クラス等を参考として作業に余裕のある時間を設定し、その時間の範囲内で保護具を使用する。
- 呼吸用保護具 : 状況に応じた適切な呼吸用保護具を着用する。高濃度の化学物質を取り扱う場合は、送気マスクの装着を検討する。作業者がガスや蒸気にはく露される場合は呼吸用保護具（防毒マスク等）の着用を検討する。防毒マスクの選択については、以下の点に留意する。  
酸素濃度が18%未満の場所では使用しない。作業者が粉塵に暴露される環境で防毒マスクを使用する場合には、防じん機能付き吸収缶を使用する。防毒マスクは、日本産業規格(JIS T8152)に適合した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。その際、取扱説明書等に記載されているデータを参考にする。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 外観 : 粘稠液
- 色 : 白色
- 臭い : 微臭
- pH : データなし
- 融点/凝固点 : データなし
- 沸点 : データなし
- 引火点 : = 208 °C クリーブランド開放式
- 自然発火点 : データなし
- 分解温度 : データなし
- 可燃性 : データなし
- 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 相対密度 : データなし

|                             |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 密度                          | : 1.50±0.05 g/cm <sup>3</sup> |
| 相対ガス密度                      | : データなし                       |
| 溶解度                         | : 水に不溶                        |
| n-オクタノール/水分配係数<br>(Log Pow) | : データなし                       |
| 粘性率                         | : 50~90 Pa·s(23°C)            |
| 動粘性率                        | : データなし                       |
| 粒子特性                        | : データなし                       |

## 10. 安定性及び反応性

|            |                 |
|------------|-----------------|
| 反応性        | : 硬化剤(B剤)と反応する。 |
| 化学的安定性     | : 通常の条件下では安定。   |
| 危険有害反応可能性  | : データなし         |
| 避けるべき条件    | : 特に該当しない。      |
| 混触危険物質     | : 酸化剤。硬化剤類。     |
| 危険有害な分解生成物 | : 一酸化炭素。        |

## 11. 有害性情報

|                      |  |
|----------------------|--|
| 急性毒性 (経口)            | : 分類できない   |
| 急性毒性 (経皮)            | : 分類できない   |
| 急性毒性 (吸入)            | : 区分に該当しない (気体)<br>分類できない (蒸気)<br>分類できない (粉じん、ミスト) |
| 皮膚腐食性/刺激性            | : 皮膚刺激   |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼<br>刺激性 | : 眼刺激  |
| 呼吸器感受性               | : 分類できない   |
| 皮膚感受性                | : アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ                                |
| 生殖細胞変異原性             | : 分類できない   |
| 発がん性                 | : 分類できない   |
| 生殖毒性                 | : 分類できない   |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)     | : 分類できない   |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)     | : 分類できない   |
| 誤えん有害性               | : 区分に該当しない   |

## 12. 環境影響情報

生態毒性

|                 |   |                                       |
|-----------------|---|---------------------------------------|
| 生態系 - 全般        | : | 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱に注意する。 |
| 水生環境有害性 短期 (急性) | : | 水生生物に非常に強い毒性                          |
| 水生環境有害性 長期 (慢性) | : | 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性               |
| 残留性・分解性         | : | データなし                                 |
| 生体蓄積性           | : | データなし                                 |
| 土壤中の移動性         | : | データなし                                 |
| オゾン層への有害性       | : | 分類できない                                |

### 13. 廃棄上の注意

|           |   |   |
|-----------|---|---|
| 推奨製品/梱包処分 | : | <p>外箱、紙管など紙製容器・包装 : 回収または紙くずとして処理(単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物)。<br/>空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理または回収にまわす。</p> <p>金属缶、金属ドラム、金属チューブ類 : 金属くずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。<br/>ガラス容器 : ガラスくずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。<br/>プラスチック製のボトル、チューブ、袋など : 廃プラスチック類として処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。</p> |
| 残余廃棄物     | : | <p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。<br/>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。<br/>廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従うこと。<br/>廃棄の際は危険情報の反応性を踏まえて処理を行うこと。</p>  |

### 14. 輸送上の注意

#### 国際規制

| 道路輸送<br>(UN RTDG) | 海上輸送<br>(IMDG)   | 航空輸送<br>(IATA)   |
|-------------------|--|--|
| 国連番号              |  |  |
| 3082              | 3082   | 3082   |
| 国連正式品名            |  |  |
| 環境有害物質(液体)        | ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS<br>SUBSTANCE, LIQUID, N. O. S. | Environmentally hazardous<br>substance, liquid, n. o. s. |
| 輸送危険物分類           |  |  |
| 9                 | 9  | 9  |
| 容器等級              |  |  |
| III               | III  | III  |

|          |                       |          |
|----------|-----------------------|----------|
| 環境有害性    |                       |          |
| 環境有害性：該当 | 環境有害性：該当<br>海洋汚染物質：該当 | 環境有害性：該当 |

海洋汚染物質：該当  
特別な輸送上の注意：『7. 取扱い及び保管法』の記載に従うこと、  
容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

#### 国内規制

陸上規制：消防法、労働安全衛生法、毒劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。  
海上規制情報：船舶安全法の規定に従う。  
航空規制情報：航空法の規定に従う。  
緊急時応急措置指針番号：171  
その他の情報：補足情報なし

#### 15. 適用法令

労働安全衛生法：変異原性が認められた既存化学物質(法第57条の5、労働基準局長通達)  
毒物及び劇物取締法：該当しない  
消防法：第四類 第四石油類「火気厳禁」危険等級 III  
外国為替及び外国貿易法：輸出貿易管理令別表第1の16の項  
船舶安全法：有害性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)  
航空法：その他の有害物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)  
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)：該当しない  
労働基準法：感作性を有するもの(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号、平8労基局長通達、基発第182号)

#### 16. その他の情報

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。  
以前にお渡しした本製品の安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。  
法改正や製品の改良によりSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうか御確認下さい。

ホルムアルデヒド放散等級：日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-011365 F☆☆☆☆

4VOC放散速度基準：日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-505280 4VOC 基準適合

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によ

って生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。



## 1. 化学品及び会社情報

## 製品特定名

化学品の名称 : エポシールPLUS (硬化剤)

## 供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : タキロンシーアイ株式会社  
住所 : 〒671-2421  
兵庫県姫路市安富町長野 405  
担当部門 : 安富工場 技術グループ  
電話番号(緊急連絡電話番号) : 0790-66-2285

## 作成日及び改訂日

作成日 : 2014年12月1日  
改訂日 : 2024年6月7日

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物理的危険性

引火性液体 : 区分3

## 健康有害性

急性毒性(経皮) : 区分3  
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分4  
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2  
皮膚感作性 : 区分1

## 環境有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分3  
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分3

GHS分類結果が「区分に該当しない」、「分類できない」の項目は記載していない。

## 絵表示



GHS02



GHS06

注意喚起語 : 危険

危険有害性 : 引火性液体及び蒸気 (H226)  
皮膚に接触すると有毒 (H311)  
皮膚刺激 (H315)  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317)  
強い眼刺激 (H319)

|                     |   |
|---------------------|---|
|                     | 吸入すると有害 (H332)<br>長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)   |
| 注意書き                |   |
| 安全対策                | : 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。<br>(P210)<br>容器を密閉しておくこと。(P233)<br>容器を接地しアースをとること。(P240)<br>防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。(P241)<br>火花を発生させない工具を使用すること。(P242)<br>静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)<br>ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。(P261)<br>取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)<br>屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)<br>汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)<br>環境への放出を避けること。(P273)<br>保護手袋を着用すること。(P280)   |
| 応急措置                | : 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352)<br>皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。<br>皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)<br>吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)<br>眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。<br>(P305+P351+P338)<br>気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)<br>特別な処置が必要である。(P321)<br>皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)<br>皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P333+P313)<br>眼の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)<br>汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。<br>(P361+P364)<br>汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。<br>(P362+P364)<br>火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378) |
| 保管                  | : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)<br>施錠して保管すること。(P405)   |
| 廃棄                  | : 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)  |
| 重要な徴候及び想定される非常事態の概要 | : 有機溶剤中毒を起こすおそれがある。   |

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

一般名 : エポキシ樹脂系接着剤 硬化剤

| 名前                     | 濃度 (%) | 化学式     | 官報公示整理番号       |       | CAS 番号     |
|------------------------|--------|---------|----------------|-------|------------|
|                        |        |         | 化審法番号          | 安衛法番号 |            |
| ポリアミドアミン(硬化剤としての名称)    | 非公開    | 非開示     | 非開示            | 非開示   | 非開示        |
| 合成イソパラフィン系炭化水素 (C6~13) | 5 - 10 | CxHy    | —              | —     | 64742-48-9 |
| テトラエチレンペンタミン           | 1 - 5  | C8H23N5 | (2)-162, (7)-5 | —     | 112-57-2   |
| 変性脂肪族ポリアミン (硬化剤としての名称) | 非公開    | 非開示     | 非開示            | 非開示   | 非開示        |

#### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い場合は医師の診察を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに医師に連絡すること。  
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。  
直ちに医師に連絡すること。  
無理に吐かせないこと。
- 応急措置をする者の保護 : 適切な保護具を着用して作業する。

#### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末化学消火剤、炭酸ガスまたは通常の泡消火剤、砂／土
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない、水
- 火災危険性 : 極めて引火性の高い液体及び蒸気。
- 消火方法 : 火災の場合 : 安全に対処できるならば漏えい(洩)を止めること。  
安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。
- 消火を行う者の保護 : 圧縮空気・酸素呼吸器、  
耐火防護服

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

## 非緊急対応者

- 保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
- 応急処置 : 皮膚、眼との接触を避ける。  
漏出エリアを換気する。  
漏出した製品に接触することもその上を歩くこともしないでください。  
関係者以外の立入りを禁止する。

## 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。  
排水溝または水路への侵入を防ぐ。  
製品を環境中に放出しない。

## 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法 : 大規模漏出の場合、溝に漏出を封じ込め、その後の安全な廃棄のため、湿った砂または土でふさぐ。  
可能であればリスクなく漏出をせき止める。
- 浄化方法 : 少量の液体流出：不燃性吸収材に取り込み、廃棄用容器に入れる。  
砂または土により、すべての拡散した製品を吸収する。  
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。  
『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 安全取扱注意事項 : 眼、皮膚、衣類につけないこと。  
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
作業所の十分な換気を確保する。  
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。  
火気厳禁、静電気注意。  
『10. 安定性及び反応性』を参照。

- 衛生対策 : 製品取扱い後には必ず手を洗う。

### 保管

- 安全な保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
日光から遮断すること。
- 保管温度 : 2 - 40 °C

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 十分な換気を行う、局所排気装置を設置する。
- 手の保護具 : 保護手袋を着用すること、不浸透性の保護手袋を着用する。保護手袋の選択については、以下の点に留意する。  
取扱説明書に記載されている耐透過性クラス等を参考として、作業に余裕

|            |   |  |
|------------|---|--|
|            |   | のある時間を設定し、その時間の範囲内で保護手袋を使用する。  |
| 眼の保護具      | : | 適切な眼の保護具（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。  |
| 皮膚及び身体の保護具 | : | 長袖作業衣、必要に応じて不浸透性の保護服及び保護長靴を着用する。保護服及び保護長靴の選択については、以下の点に留意する。取扱説明書に記載されている耐透過性クラス等を参考として作業に余裕のある時間を設定し、その時間の範囲内で保護具を使用する。   |
| 呼吸用保護具     | : | 状況に応じた適切な呼吸用保護具を着用する。高濃度の化学物質を取り扱う場合は、送気マスクの装着を検討する。作業者がガスや蒸気にはく露される場合は呼吸用保護具（防毒マスク等）の着用を検討する。防毒マスクの選択については、以下の点に留意する。<br>酸素濃度が18%未満の場所では使用しない。作業者が粉塵に暴露される環境で防毒マスクを使用する場合には、防じん機能付き吸収缶を使用する。防毒マスクは、日本産業規格(JIS T8152)に適合した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。その際、取扱説明書等に記載されているデータを参考にする。 |

## 9. 物理的及び化学的性質

|                             |   |                             |
|-----------------------------|---|-----------------------------|
| 物理状態                        | : | 液体                          |
| 外観                          | : | 粘稠液                         |
| 色                           | : | 薄黄白色                        |
| 臭い                          | : | 芳香族系溶剤臭                     |
| pH                          | : | データなし                       |
| 融点/凝固点                      | : | データなし                       |
| 沸点                          | : | データなし                       |
| 引火点                         | : | 55 °C セタ密閉式                 |
| 自然発火点                       | : | データなし                       |
| 分解温度                        | : | データなし                       |
| 可燃性                         | : | データなし                       |
| 爆発下限界及び爆発上限界/<br>可燃限界       | : | データなし                       |
| 蒸気圧                         | : | データなし                       |
| 相対密度                        | : | データなし                       |
| 密度                          | : | 1.43±0.05 g/cm <sup>3</sup> |
| 相対ガス密度                      | : | データなし                       |
| 溶解度                         | : | 水に不溶                        |
| n-オクタノール/水分配係数<br>(Log Pow) | : | データなし                       |
| 粘性率                         | : | 30~60 Pa·s(23°C)            |
| 動粘性率                        | : | データなし                       |
| 粒子特性                        | : | データなし                       |

## 10. 安定性及び反応性

- 反応性 : 主剤(A剤)と反応する。
- 化学的安定性 : 通常の使用条件下では安定。
- 危険有害反応可能性 : エポキシ樹脂類、イソシアネート類と反応しやすい。  
空気中の炭酸ガスと反応して炭酸塩を形成することがある。
- 避けるべき条件 : 特に該当しない。
- 混触危険物質 : 酸化剤。エポキシ樹脂類。
- 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素。

## 11. 有害性情報

- 急性毒性 (経口) : 分類できない
- 急性毒性 (経皮) : 皮膚に接触すると有毒
- 急性毒性 (吸入) : 分類できない (気体)  
吸入すると有害  
分類できない (粉じん、ミスト)

|             |                          |
|-------------|--------------------------|
| ATE JP (経皮) | 660.002 mg/kg bodyweight |
| ATE JP (蒸気) | 16.79 mg/1/4h            |

- 皮膚腐食性／刺激性 : 皮膚刺激
- 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 強い眼刺激
- 呼吸器感作性 : 分類できない
- 皮膚感作性 : アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない
- 発がん性 : 分類できない
- 生殖毒性 : 分類できない
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない
- 誤えん有害性 : 区分に該当しない

## 12. 環境影響情報

- 生態毒性
- 生態系 - 全般 : 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱に注意する。
- 水生環境有害性 短期 (急性) : 水生生物に有害
- 水生環境有害性 長期 (慢性) : 長期継続的影響によって水生生物に非常に有害




|           |          |
|-----------|----------|
| 性)        |          |
| 残留性・分解性   | : データなし  |
| 生体蓄積性     | : データなし  |
| 土壌中の移動性   | : データなし  |
| オゾン層への有害性 | : 分類できない |

### 13. 廃棄上の注意

- 推奨製品/梱包処分 : 外箱、紙管など紙製容器・包装 : 回収または紙くずとして処理(単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物)。空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理または回収にまわす。
- 金属缶、金属ドラム、金属チューブ類 : 金属くずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。
- ガラス容器 : ガラスくずとして処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。
- プラスチック製のボトル、チューブ、袋など : 廃プラスチック類として処理(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。
- 残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従うこと。廃棄の際は危険情報の反応性を踏まえて処理を行うこと。

### 14. 輸送上の注意

#### 国際規制

| 道路輸送<br>(UN RTDG)   | 海上輸送<br>(IMDG)  | 航空輸送<br>(IATA)   |
|---|---|--|
| 国連番号  |   |  |
| 2733  | 2733  | 2733   |
| 国連正式品名  |   |  |
| ポリアミン類(引火性かつ腐食性のもの)(他に品名が明示されているものを除く)  | POLYAMINES, FLAMMABLE, CORROSIVE, N. O. S.  | Polyamines, flammable, corrosive, n. o. s.   |
| 輸送危険物分類   |   |  |
| 3(8)  | 3(8)  | 3(8)   |
|  |  |  |



|             |                             |             |
|-------------|-----------------------------|-------------|
| 容器等級        |                             |             |
| III         | III                         | III         |
| 環境有害性       |                             |             |
| 環境有害性 : 非該当 | 環境有害性 : 非該当<br>海洋汚染物質 : 非該当 | 環境有害性 : 非該当 |

海洋汚染物質 : 非該当

特別な輸送上の注意 : 『7. 取扱い及び保管法』の記載に従うこと、  
容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

## 国内規制

陸上規制 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号 : 132

その他の情報 : 補足情報なし

## 15. 適用法令

労働安全衛生法 : 第3種有機溶剤等 (施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第5号)  
名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)  
危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号)  
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)  
石油ナフサ (政令番号 : 330) (含有量 : 9.6%)

毒物及び劇物取締法 : 該当しない  
テトラエチレンペンタミンは原料中に含まれる不純物であるため、本品は劇物には該当いたしません。

消防法 : 第四類 第二石油類 非水溶性「火気厳禁」危険等級 III

外国為替及び外国貿易法 : 輸出貿易管理令別表第1の16の項

船舶安全法 : 引火性液体類 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)

航空法 : 引火性液体 (施行規則第194条危険物告示別表第1)

港則法 : その他の危険物・引火性液体類 (法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) : 第2種指定化学物質 (法第2条第3項、施行令第2条別表第2)  
3, 6, 9-トリアザウンデカン-1, 11-ジアミン (別名テトラエチレンペンタミン) (政令番号 : 276) (1.7%)

通達 基発 477 号 : エポキシ樹脂の硬化剤による健康障害の防止について (変性脂肪族ポリアミン、ポリアミドアミン、脂肪族ポリアミン)



## 16. その他の情報

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。

以前にお渡しした本製品の安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。

法改正や製品の改良によりSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうか御確認下さい。

ホルムアルデヒド放散等級 : 日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-011365 F☆☆☆☆

4VOC放散速度基準 : 日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-505280 4VOC 基準適合

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。